

教 科	家 庭	科 目	家 庭 基 礎
履修条件 対象生徒	必履修 デザイン科 2 学年		
学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じて多様な人々と協働し、よりよい社会の構築を目指して、男女が共に主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。		
学習方法	〔授業〕 ・実践的・体験的な学習活動を通して、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を身に付ける。 ・生活の中から課題を見つけ出し、生涯を見通して課題を解決する力や自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 〔家庭学習〕 ・授業で学んだ知識と技術を生かして、各自の家庭生活を見つめ、課題を設定し、夏季休業中の課題「ホームプロジェクト」に取り組む。 〔補習・その他〕 ・高校家庭科には、「学校家庭クラブ」という組織があり、家庭科を学習する生徒は家庭クラブ員となる。クラブ員全員が、家庭科で学んだ知識と技術を生かして学校・地域社会に対して研究的・奉仕的・社交な活動を行う。		
学習計画 と ねらい	<1 学期末考查まで> 1 章 自分らしい生き方と家族 2 章 子どもとかかわる 3 章 高齢者とかかわる 4 章 社会とかかわる ホームプロジェクト <2 学期末考查まで> 5 章 食生活をつくる 8 章 消費行動を考える 9 章 経済的に自立する <学年末まで> 6 章 衣生活をつくる 7 章 住生活をつくる <年間通して> 学校家庭クラブ活動 ○家族・家庭及び福祉、子供や高齢者などについての基礎的な理解と、それに係る技能を、講義や実践的・体験的な学習を通して学ぶ。 ○問題解決学習について理解し、計画的に実施、評価する。 ○食生活、消費生活・環境、衣生活、住生活などについて基礎的な理解と、それに係る技能を、講義や実践的・体験的な学習を通して学ぶ。 ○学校家庭クラブ活動の実践により、主体的に家庭生活と学校や地域の生活を改善充実しようとする態度を身に付ける。		
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	生活を主体的に営むために必要な、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、生活の中から課題を設定して実践を評価し、考察したことを論理的に表現するなど課題解決力を身に付けている。	多様な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価方法	・3つの観点別評価基準について、出席状況・授業態度・実習の進捗や作品・提出物・定期考査などの学習活動を参考に総合的に判断して評価を行う。 ・定期考査は、知識・理解を偏重することなく、3つの観点が評価できるよう作問を工夫する。		